助成番号：485

第18回国際糖質シンポジウムにおける研究成果発表と北欧産発酵乳のサンプリング

中　村　　正
生物資源化学科生物資源利用学助手

1．目　　的

XVIII International Carbohydrate Symposium 参加・発表
乳酸菌サンプリング

2．期　　間

1996年7月21日～8月5日

3．場　　所

ミラノ（イタリア），ストックホルム（スウェーデン）

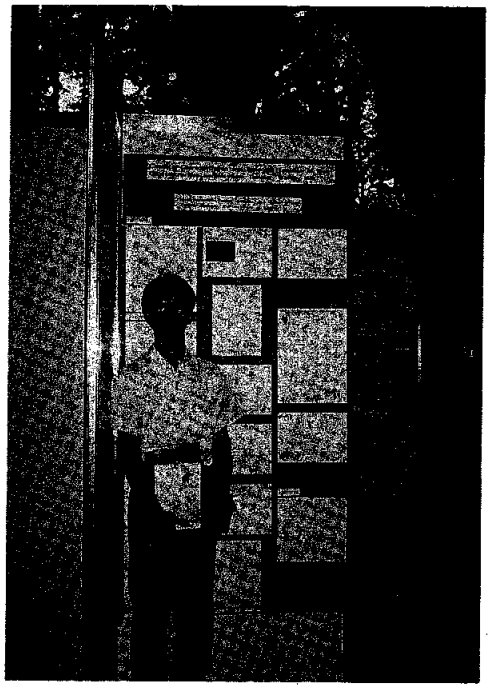
4．内　　容

平成8年7月19日から8月5日までの18日間にわたり，イタリアのミラノで行われた第18回国際糖質シンポジウム（XVIII International Carbohydrate Symposium）に参加ならびに発表および北欧スウェーデンのスットクホルムにて研究用試料として発酵乳製品の購入を行った。

第18回国際糖質シンポジウムはミラノにあるUniversita degli Studi di Milanoで平成8年7月21日～7月26日に開催された。シンポジウムは，Structure, Synthesis, BiochemistryおよびBiotechnology/Industryの大きく4つのセクションに分かれ，口頭で122件，ポスターで562件の発表が行われた。日程は下記の通りであった。

7月21日(日)　レジストレーション
7月22日(月)　オープニングセレモニー，ポスターセッション及び講演
7月23日(火)～7月25日(木)　ポスターセッション及び講演
7月25日(木)　シンポジウムディナー
7月26日(金)　ポスターセッション及びクロージィングセレモニー

ポスターセッションは大学の中庭を取り囲む広い廊下にパネルが並べられて行われた。非常に開放的で和やかな雰囲気ではあったが，真昼の気温の高さと日差しの強さに，皆ミネラルウオーターを片手に汗を拭いながら活発な質疑・応答を行っていた。



ポスター発表会場にて

筆者はStructureのセクションで発表日が最終日であったため，ゆっくりと他の研究者の発表を聞いて回ることができ，良い勉強の機会となった。その際，九州大学農学部の伊東　信先生とディスカッションし，帰国後，羊の乳腺を使っての共同研究をするということにまで，話が発展したことは大きな収穫であった。また，シンポジウムディナーの際にも，様々な研究者と研究内容についてのディスカッションできたことは，今後の研究の発展に大きな財産となった。

学会期間中の交流もあり，最終日の筆者の発表の際には色々な方がポスターの処に来て，研究内容を見ながら様々な質問をしてくださったおかげで，色々細かなところまで研究のディスカッションをすることができ，非常に有益な時間を過ごすことが出来た。

この後，ローマを経由し，今後の研究試料として北欧の発酵乳製品の入手するためにスウェーデンのストックホルムへ向かった。ストックホルムは，白夜に近い状態でP.M. 11:00頃まで明るく，丁度，夏祭りの期間で街中騒がしく，寝るのには多少苦労した。目的とした北欧の発酵乳は，宿泊したホテルの近くの店で数種類を購入することが出来た。北欧には様々な乳酸菌飲料があり，その中に「おなか」とひらがなで名称の付いたものがあり目を引いた。これは，街で聞いたところ，日本人が乳酸菌を持ち込み，現地で製造しているアシドフィルスミルクであることが後になって解った。

最後になるが，購入した発酵乳製品は，気付けば全部で10 kg程度になっており，持ち帰るのは大変であったが，無事研究室に持ち帰ることができた。現在は，菌の分離を済ませ，今後の研究試料として研究室に保存されている。

今回の渡航に際して，多大なご支援を賜りました(財)帯広畜産大学後援会に対して深謝の意を表します。